

市の鳥



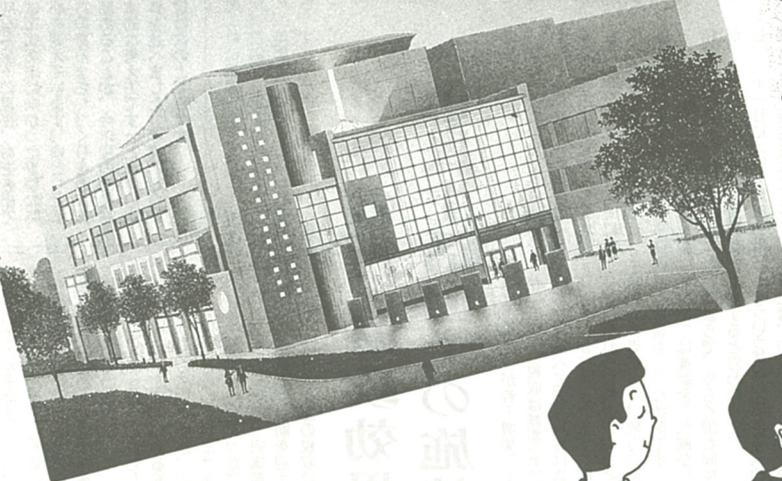
カワラヒワ

広報 えびな

編集・発行
海老名市役所広報広聴課
〒243-04
神奈川県海老名市勝瀬175
☎ (0462) 31・2111

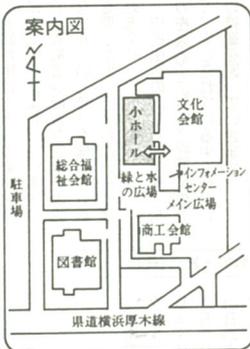
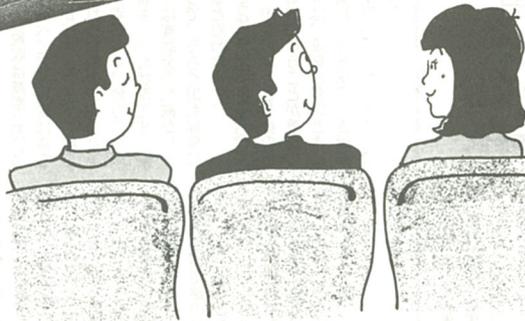
完成は 平成7年7月

文化行政の拠点施設
として完成が待たれる小ホール



文化会館に小ホール建設

市民待望の小ホールの建設が、文化会館で去年12月から始まりました。「文化芸術の創造」「参加と行動のよここび」を基本理念としている小ホールは、市内初の音楽専用施設であり、その機能は県下に誇れる質の高さを持っています。さらに、多目的に利用できるリハーサル室や完全防音の練習室なども併せて設置しています。今回は、この小ホールを紹介します。



小ホールは、市の文化行政の拠点施設として、また、市の文化施設の中心施設として計画され、市民への文化芸術の提供や市民が演奏などできる場の提供を目的に建設されるものです。平成三年、市民からの請願により、市議会が小ホール建設調査特別委員会を設置され、平成四年には、市民、学識経験者、音楽・演劇関係者など十六人による市文化会館小ホール等建設懇話会が設置されました。これらの会議では「特徴のあるホールにするため、多目的とせず音楽専用とし、音響設備などは県下有数のものとする」「グレードの高いホールとし国際的な演奏者も呼べるようにする」などの意見がまとまりました。これらの意見を取り入れ、去年六月から設計に入り、十二月

から平成七年七月の完成を目指す。小ホールは、既存建物との調和を図りながら、新しい景観を生み出すニューボックス型で、豊かな都市環境に合わせたものです。広場には、以前は水田であったことから、池や水を使った演出を行い、催し物は夜間に多いことから庭園をイメージしたライトアップにより、市民の憩いの場所としての機能を持たせています。

市内初の音楽専用施設



低料金で母子室も

ピアノ発表会を年2回ほど開いている田中美智子さん(国分北在住)に、小ホール建設について伺ってみました。

「小ホールが文化会館の隣にできると聞いて、大変うれしく思います。今まで文化会館を利用していましたが、客席が多すぎること、使用料が高いので大変でした。ピアノなどを練習している人にとって、発表会は良い刺激になりますので、低料金で多く開けるようにしてほしいと思います。また、小さい子が多く来るので母子室や、演奏者が良く見えるような座席の配置なども考慮してほしいと思います」

完全防音の練習室も

多目的利用の文化会館に対して音楽専用ホールとしての小ホールは、文化会館の西側に隣接した地上四階建て、建築面積約千三百平方メートル、延べ床面積約千三百九十平方メートル、三階には、壁に防音材を入れ

この小ホールの中心となるホールは、音楽専用として、温かく、やさしい響きを音響のイメージとしました。内装は、木材の柔らかさ、温かさを生かして、木質系の材料を多く使ったパロク風としました。

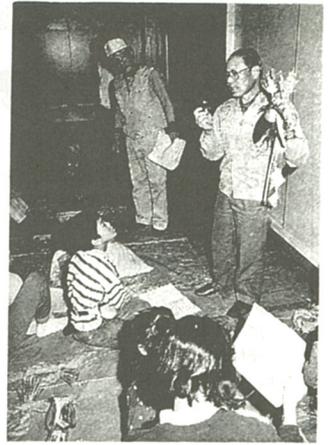
音響効果には特に配慮し、演奏される楽器に合わせた最良の残響時間が設定できるように、可変式の音響板を設置し、演奏者と聴衆が一体感を持って演出にしています。このホールではピアノ、重奏、弦楽四重奏、三十人程度の演奏会や七十人程度のコーラスなどを行うことができます。

練習のほか、ミニコンサートなど多目的に利用できるリハーサル室、鑑賞後の余韻を楽しむレストラン、チケット販売などを行うインフォメーションセンターがあります。二階は、障害者用二席を含む三百三十五席の小ホールと、バーティカルを設け湯茶接待も可能です。また、中央公民館を増築して、研修室五室を設けます。三階には、琴、謡曲などの邦楽などの大音量の楽器用、完全防音の練習室が各一室あるほか、会議室が一室あります。四階には、壁に防音材を入れ練習室が四室あります。

しめ縄飾りが完成

市内8会場で民芸教室

十二月二十三日から二十五日までの三日間「民芸教室」が児童館など市内八会場で開催され、約三百五十人の小学生がしめ縄作りを行った。



講師の指導でしめ縄飾りに挑戦

児童館など市内八会場で開催され、約三百五十人の小学生がしめ縄作りを行った。歳末の恒例行事となったのしめ縄作りは、子供たちに古き良き伝統を伝えようと十年前から行われている。

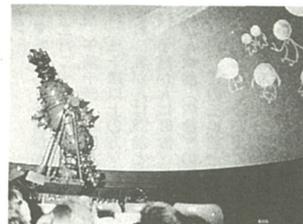
二十四日、上今泉コミュニティセンターで行われた同教室に

冬の星座を楽しむ

プラネタリウム教室

十二月二十四日、二十七日と一月五日から七日までの計五日間、市図書館四階にある教育センタープラネタリウムが一般公開され、冬休みの子供たちなどにぎわった。

この「冬休みプラネタリウム教室」では、プラネタリウムを使って、冬の星座の探し方や星



児童向けの物語も投影

フォトピックス



揃いの着物で踊りを披露

歌と踊りで親ぼく

中心荘交流会に130人

上今泉四丁目にある老人ホーム「中心荘」のお年寄り、市老人クラブ連合会、廣壽登

喜遊会長、会員が、十二月十五日、市総合福祉会館で歌や踊りを通して交流を深めた。市老人クラブ連合会主催の同交流会には、市老連側から約百人、中心荘側から二十二人が参加、ステージに上ったお年寄りがカラオケで得意な民謡や演歌を歌い、お揃いの着物で踊るたびに会場は拍手に包まれた。歌や踊りの合い間には、思い出話や近況報告に花が咲き、同じ年代のせいか、お互いに気が合うので楽しい。次回も参加したい」という声が上がった。

太巻きずしに挑戦

お米を使った料理講習会

十二月十七日、市中央公民館で開かれた「お米を使った料理講習会」には、市内の主婦など三十人が参加し、薄焼きタマゴを使った太巻きずし作り挑戦した。

この講習会は、市米消費拡大推進協議会(中山善会長)が、地

域米の消費拡大を図るため、昭和五十九年から行っている。講師の説明の後、慣れない手つきで太巻きずし作りを取り組んだ参加者は、悪戦苦闘しながらも全員が一歩ずつ完成させ、試食後には「おいしいので半分は我が家へのお土産に…」という声も。

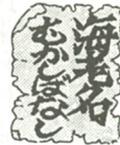


まずは薄焼きタマゴから...

海老名むかしむかし

☎33・3838

電話で海老名の昔ばなしが聞けます。1月8日～1月27日 第148話 海老名のタヌキ 1月28日～2月17日 第149話 家伝の妙薬



第318話 小児部の大作

ちいさこべ おおさく

寛政の頃というから、二百年ほど前の話になる。樽井の北の外れ、現在は国分寺台団地になっている早川(綾瀬市)境の雑木山に、作兵衛という独り者が炭焼きを

人並み外れた大男だったの「大作」でとってつけたが、若白髪で頭が真っ白だったから、子供たちは「大作爺さん」と呼んでいた。仁玉様のように頑丈な体には似合わない、目の小さい柔和な顔で立派で優しいので、子供たちに「大作爺さん、大作爺さん」と親しまれていたが、当人も子供好きで、独り暮らしの呑気な生活だから、宿へ出てくる時間も仕事も忘れて、日暮れまで子供たちの遊び相手をしてあげた。



馬の水桶を裏返しに底にのせたシドミの実を、目隠ししてつかみとって遊ぶ。よくやっていたが、シドミ特有の香りを頼りに、勘でその位置を探るこの遊びも、子供たちには喜ばない。竹筒に自分の背丈だけ離れた位置から、ドングリを投げ入れる遊びなど、手元が見えなくなるまで競争していた。

寛政の頃というから、二百年ほど前の話になる。樽井の北の外れ、現在は国分寺台団地になっている早川(綾瀬市)境の雑木山に、作兵衛という独り者が炭焼きを

折れた方が負け、というたわいのないものが、次々に小枝を取り替えて、勝負に興じた。こうして遊ぶのは「大作遊び」といって、子供たちの間に代々伝承されていた。その頃、大谷宿には、清流谷川のほとりに富貴堂と、う田舎離れた旅籠宿があり、谷戸の奥には玉すだれのような美しい滝が水音を響かせ、絵のような水車なども回っていたので、来遊する風流人も多かった。この富貴堂に逗留していた江戸の絵師が、大作の素朴な風采と純粋な人柄に魅せられて、子供と遊ぶ様子を毎日のようにじっと見ているが、夜になると部屋にこもって、子供たちと遊ぶその姿を一心に描き上げていた。初めはその意味を知らなかったが、宿の主人が「子と遊んだのは、お前のことだ。天皇のお召しというので、大臣が大勢の子供をそろそろ連れて参内する。帝は「子と遊んだのは、お前のことだ。天皇のお召しというので、大臣が大勢の子供をそろそろ連れて参内する。帝は「子と遊んだのは、お前のことだ。天皇のお召しというので、大臣が大勢の子供をそろそろ連れて参内する。」